

# 「家がいいね」 第124号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2014. 9. 8

## エンディングノートの話、再び、三たび

実はもっと多く、お話する機会が増えています。最近では、9月4日に飯南公民館で地元の50人の方に説明をしました。遡ると4月に桑名のお寺、昨年11月に松阪市内の公民館。主に高齢者の方が自らの最期を想定する話に真剣に聴き入っていました。10月12日(日)の午後は、四日市三重西団地のNPOからの依頼があります。

エンディングノートは生活全般をバトンタッチするためのメモです。遺言書のような法的効力が無い反面、前もって家族が率直に話し合うツールとして欲しいものですね。

胃がんだった父親の最期とエンディングノートの実際を見事に映し出した映画が、10月4日(土)



エンディングノート

14時に日赤で無料上映です。家族の壁にカメラが分け入り、ドラマではない生と死の対話を率直に聴き取り、絶妙のドキュメントになっています。(申込制 問合せは、0596・65・5002)

## 進富座での映画のおススメ

四国・南国市の豊かな自然に育まれ、支え合うように生きてきた小児科医師(石本浩市さん)と、認知症の日々を生きる妻(石本弥生さん)との、10年間に及ぶ「いのち」を巡る愛の物語です。誰の身にも起こる可能性がある認知症という病。愛する人が認知症になったとき、自分が認知症になったとき、一体何が大切なのか・・・。この映画を観たとき、私たちはきっと、それぞれに思いを巡らせるでしょう。

上映は10月25日(土)と30日(木)。ぜひ、ご覧下さい。

## 臨時休診のお願い

10月29日(水)ですが、愛知ホスピス研究会の皆さんと一緒に、長野県松本市の神宮寺へと訪ねて参ります。休診をお許しください。

お寺はコンビニの数ほどありますが、神宮寺は多様な生活相談をして、ケアタウン浅間温泉などを開所しているほどユニークな存在です。住職の高橋卓志さんが、世界のホスピスケアの現場を飛び回って見て来られた体験が、地域にどのような結びつきについているのかを拝見したいと思います。

## 風で季節を知る

涼しい風が吹きぬけ今日は暦の白露、十五夜。明日は重陽の節句。そして二十日、秋のお彼岸も近くなります。身体の中を季節が通り抜けてゆきますね。



自宅での人生を  
最期まで支援します

〒516-0805  
三重県伊勢市御園町高向 927  
電話 0596-20-8104  
ファクス 0596-20-8105

メール [homecare@kr.tcp-ip.or.jp](mailto:homecare@kr.tcp-ip.or.jp)  
ホームページ <http://isezaitaku.com>

